

ウクライナ支援の調べ 伊那から 市内のピアニスト平沢さん 演奏会

信州から
NOWAR

伊那市上牧のピアニスト平沢真希さん(55)が27日、同市



演奏の合間に聴衆に語りかける平沢さん

荒井のニシザワいなっせホールでウクライナ支援の演奏会を開いた。ロシアの侵攻から逃れた避難民を多く受け入れているポーランドで16年間暮

らした平沢さん。平和への祈りを込めて情感豊かに演奏し、150人が聴いた。

ポーランドの作曲家ショパン、シマノフスキらの13曲を披露。曲の合間に、かつてウクライナ西部リビウで地元オーケストラと共演したことを懐かしみ、「あのホールも今はないかと思うと、言葉が見つからない」と話した。

終盤で「命の元をたどれば私たちの古里はみんな一緒」と聴衆に語りかけ、唱歌「故郷」を演奏。合わせて歌う観客もいた。演奏が終わると拍手が鳴り響いた。

同市山寺の団体職員菊田文太郎さん(46)は「演奏の合間にポーランドやウクライナでの思い出を話してもらい、曲が一層心に染みた。音楽には人を一つにする力があると感じた」と話した。

平沢さんは後日、開催経費を除いた収益と当日の募金の計25万7232円をポーランド政府に届ける。